

東海坏（田エリア）座談会（1回目まとめ）

1 実施日時

令和5年9月29日（金） 18:00～20:00

2 参加者

東海坏土地改良区及び美原・東下水利組合関係者，多面的機能推進委員会関係者，転作実践委員会関係者，エリアの農業者及び中心的担い手，東海村農業委員，農地利用最適化推進委員，JA職員，東海村職員（事務局）

コーディネーター：農研機構 唐崎卓也氏

計54名

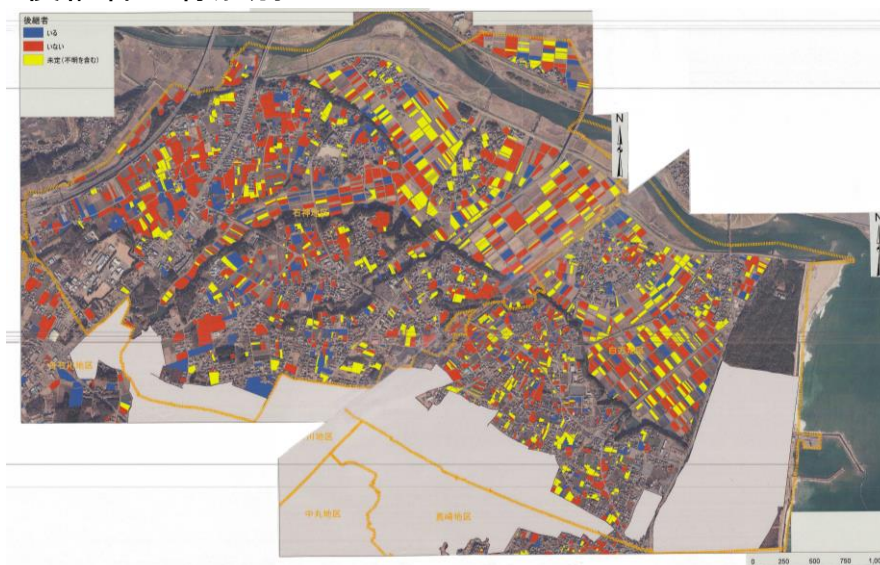
3 内容

（1）現状地図

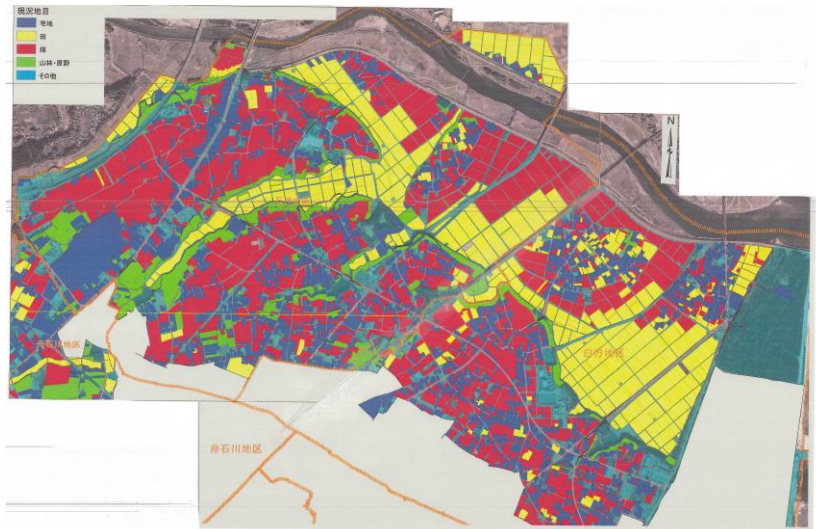
・耕作者別



・後継者の有無別



・ 現状地目別



(1) 地域農業の現状及び課題

<参加者からの意見>

- ・ 担い手の育成と支援や技術が必要。
- ・ 環境整備が必要。
- ・ 土壌の質や形状が均一ではない。
- ・ 農地が集約されていない。
- ・ リーダーがいない。
- ・ 後継者、担い手がいない。
- ・ 排水施設の老朽化。
- ・ 雑草が多く、管理が難しい。休耕地もある。
- ・ 米作りに魅力がない。

<まとめ>

- ・ 農地の質や形状が悪い、排水施設の老朽化等の問題があり、作業効率が悪く、担い手も減っている。
- ・ 後継者がいないこと等から休耕地が増えてきている。
- ・ 場所によって土壌の質が異なり、作物が育ちにくい圃場がある。

(2) 課題解決に向けた意見

<参加者からの意見>

- ・ 中間管理機構の活用。
- ・ 坏地区に特化した作物や、農作物のブランド化。
- ・ 農業法人や公社の設立や法人の人材の増員。
- ・ 地域内の農地の貸し手や借り手の情報発信。
- ・ 多面的機能の活用。
- ・ 親しい人同士での貸し借り。
- ・ 農業機械の貸し借り機関の充実。
- ・ 基盤再整備。
- ・ 現役農業者への支援、補助。

<まとめ>

- ・ 地域特性（土質や水田・陸田の違い、集落の別等）に合った作物等を検討していく。
- ・ 基盤整備により生産効率を高め、担い手の確保や耕作放棄地の拡大防止に努める。
- ・ 中間管理機構を活用するべく、制度の情報共有を図る。
- ・ 農業法人の機能強化を含む担い手の育成手法の検討。

(3) 次回の話し合い時に実施すること（案）

- ・ 1回目の話し合い結果のまとめを参加者間で共有し、行政、地域、JA、土地改良区、農業委員会等、それぞれの機関ができることを洗い出し、課題解決プランを検討する。
- ・ 行政は、農地の集約や後継者等への支援に関する制度概要を整理し、参加者へ情報提供する。
- ・ 土地改良区内での施設整備や事業推進の優先順位を共有する。

【座談会の様子】

< 1班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 技術指導してくれる場が欲しい。
- ・ 外からも人が入りやすい、生活しやすい労働環境が必要。
- ・ 新しい技術の活用。
- ・ 農地をまとめることが必要。
- ・ 環境整備（排水、アクセス道路、山側の枝、畦やクロをまとめる）をすれば担い手も増える。
- ・ 土壤にあった作物作りの検討。

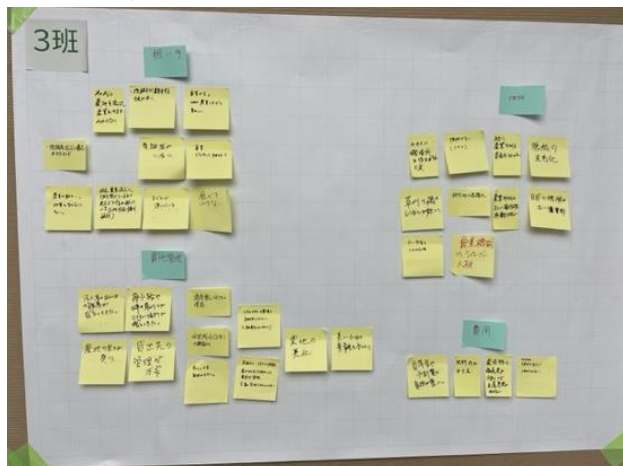
< 2班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 人材（リーダーや後継者）がない。
- ・ 基盤整備が必要。（圃場整備して40年以上経っている。）
- ・ 米価が上がってほしい。
- ・ 農業機械が壊れたら農業を終わりにしたいという方が多い。
- ・ 耕作者が困らない農地の管理が必要。
- ・ 農地の集約を進めてほしい。
- ・ 農業法人を設立し、耕作を進める。
- ・ 米粉の消費を増やす。
- ・ 地域内の農地の貸し借りの情報発信ができるシステムの構築。

< 3班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 高齢化の影響もあり、農地の管理が十分にできていない。（排水路，畦など。）
- ・ 機械の維持管理が十分にできない。
- ・ 農業機械のレンタル等の支援が必要。
- ・ 後継者，担い手がいない。原因は農業では生計を立てられないことにある。

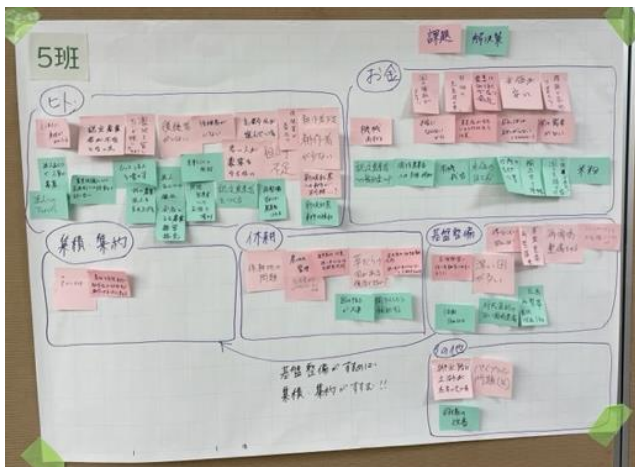
< 4班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 職業にならない農業はやりたい人がいない。
- ・ 農地の集約化が必要。(現在は農業の作業効率が悪い。)
- ・ 収益の柱をどう作るか考えなくてはいけない。
- ・ 長野県上野村では、レタスを耕作することで地域農業を復活させたということを知ったことがある。先進的な事例から学ぶこともある。
- ・ 目標を決めて取り組んでいくことが第一歩である。

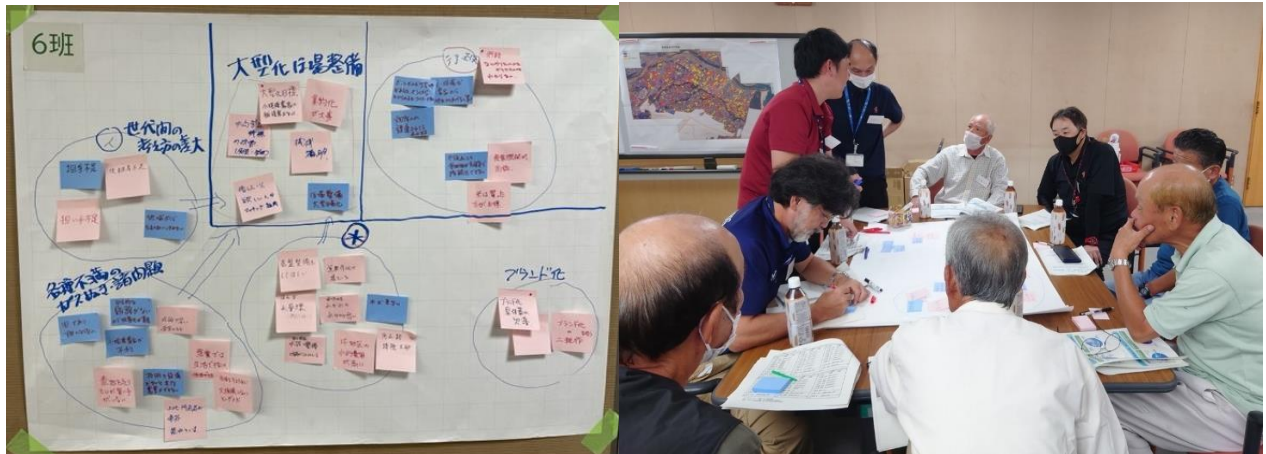
< 5班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 人、お金、集積集約、基盤整備の話題が出た。
- ・ 人の問題としては、後継者不足、担い手不足。
- ・ 国の補助金が少ない、米価が低い、米の需要がない、機械が高い等の要因で、全く儲からない。
- ・ 圃場が狭いため、作業効率が悪い。
- ・ まずは基盤整備し、圃場を大きくし、国や自治体の補助金を活用するなどして工夫すれば後継者も増えてくるのではないかと。

< 6班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 販路がない，米価が低い。
- ・ 世代間の考え方の差が大きい。年配の方は圃場を大きくして生産を拡大すべきと考える方が多いが，若い方の中には小さくても良いから自分で所有してやりたいという方もいる。
- ・ 小規模農家に対する支援も検討してほしい。
- ・ 行政は農家に何をやってほしいのか，農家が何をやりたいのか矢面に立って意見を聞くしかない。
- ・ 基盤整備，耕作放棄地
- ・ 水が来ない所の圃場整備が必要。
- ・ ブランド化して高く売りたいが，どのようにしたら良いか方法がわからない。

【コーディネーター（唐崎先生）からの総括】

当初の想定よりたくさんの意見や様々な視点での意見が出た。基盤整備の問題意識や要望が高いことが分かった。

東海坏エリアでは，路地トマト等の新しい取組みを実施していることが分かり，今回の座談会で共有できたと思う。

ワークショップは今回が始まりであり，今回は問題の掘り起こしの機会であった。今後は具体的なアイデアなどの議論をしてほしい。

次回の座談会までの宿題として，ブランド化やどのように新しい取組みを進めていくか等のアイデアを考えてきてほしい。次回もぜひ気持ちを楽しんで参加してほしい。